

144MHz

JR3PIO 関森 源治 Genji Sekimori

2メーター・バンドと呼ばれ親しまれている144MHz。普段は近場のQSOがメインですが、Eスポと言われる異常伝搬により、ときとして全国的なQSOが可能になる魅力も。普段はローカル・ラグチューを楽しみ、EスポでDX交信も楽しめる入門バンドの一つです。

Esシーズンも終わりが近づいてきましたが、皆さんのQSOの成果はいかがでしたでしょうか？

JL1EEE 井上さんは、これまでEスポの時期にグラウンド・プレーン(GP)1本で海外と交信されてきた方。熱心なワッチと、タイミングの良いFMとSSBとの使い分けなど、井上さんの経験からくる運用の成果だと思います。

GP1本で、海外とQSO

私は開局して40数年を向かえますが、過去4年間に、さいたま市で144MHzを大に楽しみましたのでご報告します(写真1)。

リグはFT-100(50W)にアンテナはダイヤモンドのGP(X-7000)を15m高の鉄塔にあげていますが、この「GPで十分、ビッグ・アンテナの多段スタックなどは不要」と考えていました。

ところが144MHzは予想外に飛びました。1シーズンが終わるころには、1エリアから最遠地域にあたるJA6、JA8とも交信ができて、最終的にはAJDも何度も達成しました。そういう中、夏のE

スポ伝搬ではさらに遠くの海外DXとのQSOも体験することができました。

DXというと、ノイズギリギリの弱い信号を追いかけるものというイメージがありますが、私の相手局はすべて強力な信号でした。

特にEスポなどではRS59+の信号が飛び込んでくることもありました。普段、日本語しか聞こえないバンドで、英語による交信が飛び交うという不思議な状況でした。

144MHzでの海外交信は、それまで衛星通信による経験はありましたが、異常伝搬によるものはありませんでした。交信したほとんどの局からQSLカードを受け取りました。

日本を含めれば、全部で5エンティティー・コンファームといったところでしょうか。交信の例を表1にあげてみましょう。これを見るとわかるように、年間でもっともEスポ発生の頻度が高いといわれる5～7月に集中しています。

相手局側でも遠方の日本とのQSOですから、嬉しさもひときわではないかと思います。

中でも2005年のBG4XCNとのQSO終了後、インターネットで中国のコールブックにあたるもの

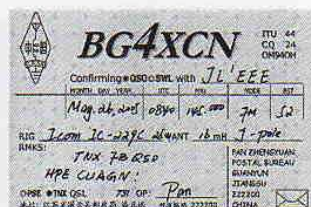


写真2 ダイレクトで届いたBG4XCNからのQSLカード

を探し出し、ダイレクトQSLを送ってあげたBG4XCN PANさんはいそいそ感激して、返信の封筒にはQSLカード(写真2)のほかに絵葉書などをいっぱい、送ってくれました。

彼の出力は25W、アンテナは簡単なJ型パッチカルだったこと、私がQSLカード到着の一番乗りだったということでした。

144MHzでのGP1本の海外DXハンティングは可能でした。HFであれば「近場」あるいは「雑魚」と呼ばれる国々ですが、このバンドでは意味のあるものだと思っています。

この3月末から集合住宅に移り、アンテナは5エレ・シングル、45m高になりました。富士山向けのビームで、関東地域は相当な範囲をカバーすることができます。

de JL1EEE 井上 博



写真1 シャックでのJL1EEE井上さん
現在は千葉・白井市にQSYされている

表1
GP1本で交信した
海外局のリスト

コールサイン	年月日	モード	相手局QTH
UA0FL	2003年6月3日	SSB	サハリン
RA0FCA	2003年6月29日	SSB	サハリン
BG4XCN	2005年5月25日	FM	中国江蘇省
HL4CFU	2005年6月11日	FM	韓国
DS4FFD	2005年6月11日	FM	韓国
BV2B	2006年6月3日	SSB	台湾